

.....
1996年9月にスタートしたタウン誌『きらこ』は
20年目に入りました。『きらこ』二十歳にちなんで、希望
に燃えていたあのころ、胸がきゅんとしたあの思い出を
綴っていただいています。
.....

佐賀から東京へ

前習志野市長 荒木 勇

『きらこ』二十歳にちなんで はたち わたしが二十歳だったころ

タウン誌の「KIRACO」
さんが20歳の誕生日を迎
えられることを心よりお
喜び申し上げます。習志
野市地域ではタウン誌が
成功することは非常にむ
ずかしいと言われていま
したが、見事創刊20週年
を迎えられるのは井手編
集長を始め関係者の努力の
賜物であると思います。関係
者に心より敬意を表したい
と思います。
私が二十歳の誕生日を
迎えたのは東京でした。佐
賀の田舎より胸をふくら
ませて上京し、学生時代
そして将来をどのように
生きて行くかを考えてい
た時期でもありました。
田舎出身で「東京」と
いうまち、空気を理解で
きず恥ずかしい思いをし
たことも多々ありました。
私は九州の佐賀ですか
ら、大の西鉄ライオンズ
ファンでした。西鉄と巨
人が日本選手権を戦って

おりました。そのテレビ観戦のために
学生がたくさん入っている喫茶店に入
り、西鉄が優勢に試合を運ぶたびに大
きな拍手をして立ち上がると周りの学
生から大きな罵声を浴びせられまし
た。はじめてこの東京は巨人ファンが
圧倒的に多いということを知らされま
した。

また、東京六大学野球応援（明治応

援）のために神宮球場に再三足を運び
ました。当時は立教大学全盛の時代で
特に立教の長嶋茂雄選手の人気は抜群
で黄色い女性の声援が神宮の森に鳴り
響いていました。

司法試験にチャレンジ

少し東京の生活もなれてきて弁護士
を目指して司法試験にチャレンジする

原稿募集
「わたしが二十歳
はたち
だったころ」
十八、十九、二十歳のころ、あなた
は何をしていましたか。
目標に向かって努力していた。
漠然と毎日を過ごしていた。
今だから言えるけど、やんちゃ
していた。
「あ、あのころは……」と思い出すな
にかがあるはずですよ。
原稿は2000字程度、多くても、
少なくてもかまいません。

送り先

〒275-0022

習志野市香澄4-3-10-1

きらこ編集室

FAX 047-454-8481

メール kiraco@jsi.co.jp

決意を固めたのもこの頃でした。そし
て大学の同級生であった館林和子さん
（現在の妻）と知り合いになりました。
彼女も将来は法律関係の仕事につきた
いという希望をもっていましたので共
通の話題も多く、二人は順調なスタ
ートを切ることができました。

しかし私が司法試験や選挙に何回も
失敗しましたので、彼女の気持ちもお
だやかでない時期もあつたようですが
それに耐えてくれたので現在のの
家族があるわけです。

互いに年をとりましたが、
時には若い時のことを思い出
しながら口論したり、いたわ
り合ったりして日々を送って
いるところです。

「KIRACO」の益々の発
展のために今後も微力ながら
協力して参りたいと考えてお
ります。

平成27年10月20日



西鉄優勝、三原脩監督を先頭にペナントを持ち場内一周。
後楽園で。1956年10月17日 ©読売新聞社



早立戦。9回表、立教・長嶋茂雄選手が3ランホームーを放つ。
1955年9月10日 ©読売新聞社